

鹿の角でかんざし風ストラップを作ろう

鹿の角でかんざし風のアクセサリーを作ってみませんか。

動物の骨や角、あるいは牙で作られた狩猟具や漁撈具、そして装身具などを「骨角器」と呼びます。骨角器は土器や石器とともに日常生活に欠かせないもので、日本列島全域の縄文時代や弥生時代の遺跡から多種多様なものが見つかります。

鳥取県では、青谷上寺地遺跡（鳥取市）で弥生時代の骨角器がたくさん見つかり、その一部は、国の重要文化財に指定されています。

今回は、鹿の角を材料としたかんざし風のストラップを製作していただきます。



青谷上寺地遺跡で出土したかんざし

1 日 時 令和7年1月18日（土）午後1時30分～午後4時30分

(1) 受付開始 午後1時

(2) 講義 「青谷上寺地遺跡で出土した骨角器と製作方法」
午後1時30分～午後2時

講師：河合 章行 氏（鳥取県立青谷かみじち史跡公園係長）

(3) 製作体験 午後2時～午後4時30分

粗く加工した鹿の角を金属製ヤスリで削って、かんざし風の骨角器を製作していただきます。

腕や肩が少し疲れます。

2 場 所 鳥取県埋蔵文化財センター1階 分類工作室

3 参加費 無料

4 募集定員 10名（中学生以上、先着順）

5 お申込

(1) お申込方法

とっとり電子申請サービスからお申し込みください。⇒

(2) お申込期間

令和6年12月17日（火）午前8時30分～令和7年1月14日（火）午後5時

6 その他

製作する際に鹿の角の粉が出ますので、作業ができる服装でおいでください。
製作された作品はお持ち帰りいただけます。



作品例

